



フェローシップ・ニュース No.66



危険ドラッグ 特集 入寮者座談会&警視庁蜂谷氏インタビュー

警察庁、厚労省は7月22日「脱法ドラッグ」改め「危険ドラッグ」と名称が変わったと発表しました。このドラッグによる交通事故の報道も過熱し、社会問題となっています。今回は、この危険ドラッグの常用者であった日本ダルク アウェイクニングハウスに入寮者している3名にお話を伺いました。そして日々、薬物事犯の取り締まりと再犯防止に力を注いでいる警視庁池袋警察署の蜂谷警部にもお話を伺うことができました。

I 日本ダルク アウェイクニングハウス 3名の入寮者による座談会 <7月30日> インタビュー 志立玲子（精神保健福祉士）

（Q1：年齢、使用していた期間、施設に入寮した日は？）
ヒサ）今45歳です。使って20年です。周りの人たちはラッシュを使っていたので、クスリを使っているという感覚はなかったです。3月4日に入寮しました。

リュウキ）16歳から18歳まで。クリーンがあって、21歳になってまた使いました。今は22歳で、6月25日に入寮しました。

ダイ）31歳。3年位です。6月1日に入寮しました。



（Q2：使った種類と使い方は？）

ヒサ）ラッシュ、ゴメオディプト、パウダー、リキッド、ハーブは全部試しました。最終的にはリキッドでした。リキッドは内服で、5～6CCでコーラに混ぜて飲んでいました。味はまずいですが飲み込んでいました。直前までは直腸にカプセルに入れていました。そのあとは注射器で使っていました。

リュウキ）初めて使ったのはハーブ。その後に店員さんに勧められてリキッドに移りました。リキッドのあとにハーブ、そのあとパウダーに……。後半は注射器にパウダーをリキッドに溶かして打っていました。効果は、量が少なくても強さが尋常じゃなかったです。注射は下手だったので、筋肉注射でやっていました。肩や腿に打ったり、おしりに打ったりしていました。カプセルにパウダーとリキッドを入れて直腸に入れたりもしました。店員さんがくれれば追っかけでハーブも使い、使い方はネットで調べまくっていました。ネットに書いてあることは本当かどうかわからないですが……。

ダイ）ハーブから入って、あぶりです。パウダーもガラスのパイプであぶり使っていました。吸う器具はアダルトショップで売っています。昔はそこでハーブも買えました。レジの近くが多かったです。

ヒサ）ラッシュは「ビデオクリナー」として、ハーブだと「インセンス」、リキッドだと「植物の栄養剤、活力剤」として売っていました。隠語ですね。パウダーは「バスソルト」。防虫シートとして、舌に入れるLSDも売っていました。

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域
アディクション研究所

発行日
2014年9月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute) の略称です。

全国のDARCやMAC等の社会復帰施設、福祉・教育・医療・司法機関と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

危険ドラッグ特集：日本ダルクアウェイクニングハウス3名の入寮者による座談会	1
警視庁蜂谷氏インタビュー……尾田真言	4
アウェイクニングハウスからのメッセージ……ヒサ	6
アパリからのお知らせ	7
司法サポートのご案内 家族教室のスケジュール	8

（Q3：クスリの使用でどういう効果を求めていましたか？）

ヒサ）周りの人が使っているの、危険という意識はなくて、ラッシュは脈がドキドキして顔が紅潮してくるし、ゴメオは併用すると身体中が敏感になり、性的な興奮があり、気持ち良さが全然違いました。個人的にはゴメオを使っている時は体に良くないだろうと思っていました。その後、薬事法でダメになったが、ゴメオ+ラッシュ、この効果が基準になっている。これに近づけるために危険ドラッグにハマりました。これを常備していないと不安になる。仕事をしていても日課みたいにやっていました。ネットで調べて、身体的依存はないかとか調べていた。精神的には依存していたのかな？

リュウキ）最初は周りに勧められて、でも危険性は考えていなかったです。事故のニュースを見てどんな使い方しているんだよと思っていました。血管にも入れていた。入れ過ぎた時に一回気を失って、大騒ぎになって両親にばれました。もう一回、入れ過ぎた時に気持ち悪くなったので、瞬間的な危険性しか感じていませんでした。すぐに収まってしまうので…。僕は性的快感が目的でした。リキッドやパウダーは眠れなくなる。落とすというが、睡眠薬で強制的に終了させていました。ハーブは寝られるので…。

ヒサ）ハーブはダウンナーと言って落とす。リキッド、パウダーはアッパーで覚せい剤と同様の抜け方と効果があるので、組み合わせてアッパーとダウンナーを同時に使ったりしていました。

リュウキ）僕は単品で使うことはなくて、コントロールして遊んでいました。リキッドやパウダーを混ぜて使うと歌が良い歌に聞こえました。歌を聞くとこんな良い曲聞いたことがない、どの曲も素晴らしいものに聞こえていました。

ヒサ）自分の声も大きく聞こえたので、声を抑えてしゃべると独語に聞こえてしまう。音に敏感になっていて、ダウンナーだと鈍感になりました。音だけでなく性的な快感も。全ての五感が狂ってしまいました。

リュウキ）ひとつの歌をずっと聞き続けていられるし、多幸感がありました。夜部屋で注射しているときに、両親の部屋を開けた音だけでビックリしました。

ヒサ）抜けてくると被害妄想、関係妄想になったりしてビクッとしたり、寝ちゃったりする。僕は処方薬、デパスで気持ちの高まりを抑える。早く抜くために解熱剤を服用していました。自分でコントロールしているつもりでした。

リュウキ）睡眠薬を処方されていたので、処方プラス、ハーブを吸って落としていました。リキッドは仕事が楽しくて、良くできるようになっていました。ハーブの時は仕事が4時間だったんだけど、それまで持たないから、途中で切れ目が訪れて、仕事をやる気がなくなりました。

ヒサ）自分では切れているつもり。性的な敏感さはクスリが切れて中和できたと思って仕事に行っていたけど、実際は手の震えもあるし、高揚感もあったが、クスリのせいではないと思っていました。仕事もきちっとやっているつもり。でも本当は抜けていませんでした。ベースの気分が上がったところが落ちていないことに気づけませんでした。

ダイ）性的な快感を求めていたのと、よくカラオケにも行きました。毎日6時間歌っていました。どんどん上手くなるんです。声が良いように出るし、こんな高い声が出るんだと。一人で行ったので周りの評価はわからないけど、歌の上手さは元々普通くらいでしたが、点数は93点とりました。かなり良い得点が出ていました。ミュージシャンは使っているかはわかりますよ。

（Q4：今も使いたい欲求はありますか？）

ヒサ）今も使いたいです。使ってセックスできたらいいなあとたまに思います。処方も出ているし、身体もこの施設では動かしているので、そんなに使いたくてしょうがないということはないですが、使えたらいいなあと思います。対人関係の問題であったり、自己分析していく上での苛立ちはあります。



エイサーの練習風景



山本大施設長

リュウキ) クスリを使っても健康上問題もなく、何の問題もないクスリであれば使うけど…。やりたいという欲求はないです。ああ、あのときやっていたなとか、ああいう快感があったなと思い起こした時にはすぐに天秤にかけますね。やることと、やらないことと、どちらがいいか。僕は家族との関係が崩れたので…。やらない方が、これからの人生いいなと思ったら欲求が止まります。

ダイ) カラオケとかビデオボックスに行くのであればやりたいです。ここにあってもやりませんよ。街に放り出されたらやりたいです。自分で止めようという自信はない。この世からカラオケやビデオボックスがなければ止められます。朝10時に買いに行って、夜8時くらいまでフリータイムでカラオケ行って、そのあと泊まりでビデオボックス行って…という感じでした。忙しかったです。薬物中心の生活でした。

(Q5: 危険ハーブを使って車を運転したことはありますか?)

ヒサ) 自分では抜けた感があったから仕事に車で行っていました。被害妄想があったから、スピードは法定速度だったし、車間距離もいつもより空けていました。通常の運転ではなかった。これはまずいなと思った時は、スピードメーターが変わらないように見えました。速度が80km/hなら、ずっと80km/hキツカリにしか見えなかった。燃料計もガツッと減った感じに思えました。突然減ったような感覚。途中の記憶がない。ライトが滲んで見える。後続の車両が迫ってくると付けられているのではないかと妄想が入る。法定速度うんぬんではなくて、結果的に危険ではあると思います。行動が変な時は記憶が飛んだ時がある。農道に車を付けて寝ていた時がありました。妄想で追われるというパニックでおかしくなるのかもしれない。

リュウキ) 全部の種類を使って車を運転したことがあります。3年位クリーンだったときに、友人の車を運転していました。タバコを勧められて、それは断ったのですが、ハーブを勧められて吸ってしまった。やばいというのは覚えています。人の家の花壇に突っ込んでいました。すぐに車を公園の横に止めました。「危ないんだったら、端に一旦止めろ」と言われて減速を始めたが、「ブレーキはどこ?」と聞いていたらしい。それから花壇の掃除だけはして帰りました。

運転速度は元々遅かった。国道でも50km/h位で走っていました。昔大きな事故をしたことがあって、それから遅い。リキッドとパウダーを使った時も、やっぱり遅い。元から遅いというのあって安心感があって運転していました。逆に目視をやったり異様に真面目に運転していました。左折のときも巻き込み確認しているとか、30メートル手前で車線変更して、いつも以上に真面目にやっていました。車にぶつからないように注意しようとしていました。あの事故って絶対ハーブだなと思う。ぶつめたことを覚えていないとか、同じことを言っている…。ハーブを吸っての運転はその事故以降していません。友達と話していても、「今、何の話してたっけ?」とすぐに忘れてしまうくらい危険だと思います。

ダイ) 吸って運転はしたことはないです。運転が元々怖いので…。

(Q6: 最近の危険ハーブによる交通事故の報道について思うことはありますか?)

ヒサ) 危険ドラッグだけを取り上げて、危ないという報道が多いけど、他にも違う理由で事故を起こしたりしていることもあるのではないかと。それは報道しないで、危険ドラッグだけが取り上げられている。その他にも様々な問題があり、例えば自動車保険に入っていない人が事故を起こしてもあまり問題になっていないし、風邪薬を飲んでとか、2日徹夜して運転した人だって車を運転したら危険なのに、それは報道していない。マスコミ報道の在り方も考えてほしい。危険ドラッグに関わる事故は全体の事故の何パーセントなんですか? と警察にも聞いて欲しい。

(Q7: 家族はこういう状況を知っていましたか? どのような経緯で入寮しましたか?)

ヒサ) 一人暮らしだったので家族は知りませんでした。ここに来ることで初めてわかってしまいました。妄想がひどくて警察に出頭して、家族が引き取りにきて、それでばれました。逮捕はされていません。家族はビックリしていました。10年前に危険ハーブに移りました。職場がきつくて、呼び出しが多くて疲れてストレスが多い仕事でした。不眠にもなりました。自分ではクスリをやっていたので、クスリのせいかと思っていましたが、それは伏せて精神科に行っていました。職場の人に激高するようになってたり、字が上手く書けなくなりました。昨年5月に職場で異動があり、忙しくて人間関係なのかな? そういうところでストレスがありました。プライベートでもパートナーとの確執もあったり、妄想が強くなってきました。



第10回NAコンベンションの前夜祭でエイサーを披露する入寮者たち



第10回NAコンベンション六本木ライブハウスにてバンド演奏。日頃の音楽プログラムの成果を披露。

仕事でも見張られている感じ、後ろについている人が私服の警官にも見えてきました。仕事ではクスリを抜いているはずが、妄想は残っていました。ビジネスホテルでは、目が覚めると自分の悪口が書いてあるとか、外には機動隊がいるとか、それを産業医に相談して、自分でもきつかったので、12月いっぱいまで休職して自宅療養していました。最後に使った時に、手首も切って、家に火も付けて、精神病院に連れて行かれそうになりました。オーバードーズさえしなければ仕事はできると思っていました。

相談できる医師をネットで探して、ここの近くの精神科病院に受診予約をしました。たまたまダルクも調べて仙台ダルクに行って直接話をしたら、こちらの施設が良いのではないかと勧められました。病院の方はキャンセルして、こちらの施設の方が良いのかな？ と思って入寮しました。再発のことを考えたら、リハビリ施設や自助グループやミーティングの方が良いのかなと思いました。バタバタと入寮が決まり、公務員でしたから3月31日に退職するためには2月28日に手続きをしなければいけないので、辞職届を出して来ました。

リュウキ) 悲しんでいました。そんな家族を見て僕も悲しかったです。後悔もあったけど、止められない自分が悔しくて…。ここに来る前も別の施設に行っていて、その後に精神病院に行きました。家族はずっと協力してくれていました。16歳から18歳まではばれていなかった。親にばれないように、頬がこけてくると、口をふくらませればごまかせるかと思ったけど、できませんでした。腕が血だらけになったときは隠しようもなく、その時も泣かれました。やっているときも後悔していたし、ダルクに来る前の施設では、3ヵ月で出てしまい、その後下総に入院しました。下総でダルクのミーティングに出ている、退院したから治ったと思っていたらやってしまいました。医師からダルクもあるよって言われて、ここに来ました。家族は見放さずに協力してくれました。

ダイ) 働いていてお金もありました。実家は仙台で、母は新宿に出てきて一人で暮らしていました。僕は池袋で一人暮らしをしていたけど、ずっとこもっていたので母はおかしいなと思ったらしくばれました。お金もなくなっていました。頭がおかしくなり、人の家に入って喉が渴いたから、冷蔵庫の中の牛乳を勝手に飲んでしまいました。それで出て行った。しばらくたって警察の人が来て「牛乳飲んだでしょ？」と言われて逮捕されました。窃盗と住居侵入。弁護士に相談して「声が聞こえた」と言った。警察にもそれを言ったら精神病院に連れて行かれ、起訴はされず、3週間勾留されてからダルクに来ました。母親は怒っていて面会にも来てくれなかったけど、ダルクに行けば外に出られると言われて、行くところがなかったのでダルクに行こうと思いました。弁護士は国選だったけど、ダルクを紹介してくれて良い先生でした。

Ⅱ 「危険ドラッグについて思うこと」…蜂谷嘉治氏（池袋警察署）

インタビュー 尾田真言（事務局長）

6月24日、池袋駅で危険ドラッグを吸引した男の運転する車が舗道を暴走し、8人が死傷する事件が発生しました。この事件の後、取締り強化があり駅周辺にあった危険ドラッグを販売する店舗は閉店していき、空き店舗がみられはじめています。自主的に閉店する店舗もあります。当時はアダルトショップや、キャバクラなどでは兼業でドラッグを売っているお店もありました。さらに包括指定が8月から更に増えましたが、製造業者は組み換えをして売るかもしれません。今の全品物は今度の規制でひっかかると思います。デリバリーだと取締りは難しい。携帯だけあれば営業できますし…。携帯があれば解析できるけど、デリバリーを封じ込めると密売になってしまう。密売になってしまえば、今度は認識を問われることはありません。客として買った人は言い逃れが出来なくなります。買う側は、品物を決めて買うので、知らなかったというのは通用しなくなります。指定薬物もそうなるかもしれない。店をなくして、デリバリー化して、密売にした方が取締りがしやすいかもしれません。店頭で、「悪い目的では使いません」なんて承諾書を書かせるお店もありますが、しかしそれは店が言い逃れるのに必要だと思っているだけで、何の意味もありません。

店舗では元々がろうそく型、お線香型、アロマのように炊くりキッド、パウダータイプいろいろあり、液体か粉末が欲しいかをまず伝えます。包装してあっても見た目で見分ける。効き目はお店の人にもわからない。チャットやお客同士の会話でわかる。アッパー系、ダウン系か、サイケデリック系なのか？ パッケージの絵で、例えば蝶々が飛んでいる絵ならサイケデリック系、あとはネーミングなどで判断して買います。使用量も接種目的も書いていません。個人でどれくらい使えばいいか？ 覚醒剤はだいたいわかります。危険ドラッグはそれがないから、自分の身体で人体実験をするようなかたちになります。



第10回NAコンベンションのクリーンカウントダウン



蜂谷嘉治氏
（池袋警察署組織犯罪
対策課課長代理）
インタビューは7月31日

まだ効かない、まだ効かない…と言って、だんだん効いてきているのにまだ使ってしまう。よく、ぶっ飛んだという言葉が使われますが、急激に加速してしまうから、救急車騒ぎになってしまいます。119番かけると警察にも連絡がいくようになっています。

(Q1：NO DRUGS池袋はいつから始めましたか？参加者はどれくらいですか？)

月に1回開催で今回で10回が終わりました。池袋の参加者は43名です。警察官も参加しています。覚醒剤が1番多くて、危険ドラッグが2番目。受刑中や入院中の家族が多いです。検査キットを使って、承諾書を本人から取って、家庭で検査するよう指導している人もいます。抑止効果もあります。

(Q2：もし、捕まえられない薬物だった場合はどのように対応しますか？)

依存性があるから、止めないといけないということですよ。効果が短いけど、危険性はある。クロコダイルという危険ドラッグがあるけど、筋肉が溶けて骨が見えるような状態になったりします。写真を見せて、こうなるんだよと恐怖心をあおったりします。今売っている物は8月中には規制されるよと話をします。元々使用所持ともダメだけど、更に規制対象が増える。今売っているものに入っているものはダメでしょう。6・24に使われたドラッグは緊急指定されました。

(Q3：蜂谷さんにとって逮捕する意味は？)

命を救うためです。依存症の回復もそうだけど、使い続けたら死ぬんですから。止めさせるためにも捕まえることも人の命を救うことになると思って活動しています。だから強く言えるんです。5年もやっていると公判対策で使おうとする人も出てくる。初犯者で起訴した段階で、厚労省の冊子があるんだけど、そこにダルクなどが載っている。それを見せて教示をします。書いてあったことを公判で言った人がいました。本に書いてある通りを並べていたら、裁判官に心がこもってないと言われていました。教示を受けると、刑事さんから入院や治療が必要と言われたと言います。「そんなこと言ったら仕事はどうするの？まじめに仕事するんじゃないのか？」と弁護士は言う。「弁護士は何を考えてるんだよ？まず治療しないでどうするんだよ」と私が言います。

(Q4：直接、蜂谷さん自身がNO DRUGSに教示することはありますか？)

勾留が終わって、まもなく起訴という時に、この人はと思う人がいると本を持って教示します。本人もそうですが、家族もです。親や奥さんが理解を持って参加させる気持ちが必要です。まずは家族にNO DRUGSに参加することを勧める。昨年10月から始めて、池袋で私が教示した人は6組います。

(Q5：受刑中の人への対応は？)

受刑中の本人で恨みつらみを書いてくる人もいます。何なんだ？関係ないじゃないか？と。私が書いた手紙を家族の手紙に同封してもらったりします。その後に個別に手紙をくれるから一対一で対応します。何か治療しますという約束をしないと、親が身元引受しないよと伝えます。

(Q5：警察の仕事を超えたことをしているのでは？)

いや、仕事ですから。需要を減らすこと、再犯率を下げるのが目的です。

(Q7：危険ドラッグを売っている店に対して言いたいことは？)

自分が怖くて使えないものを売らないで欲しいです。善意の第三者に危害が及ぶことを分かって欲しいです。基本的には薬物犯罪は被害者がいない犯罪と言われきましたが、これは違います。危険ドラッグは摂取した人が全くの赤の他人を殺傷してしまいます。

危険ドラッグの販売方法には問題があります。原本はきれいなパッケージに入っています。それをカラーコピーして独自で作っています。一個一個袋ごとに成分が異なり、全て鑑定するので鑑定量が増えています。

(Q8：今後の課題は何ですか？)

本人の状態がだいぶ落ち着いてきたとしても仕事が見つからない。そうすると今度は奥さんの支えが揺らいでいきます。クスリはやらないけど仕事もやらないという人がいます。元々の意欲もあまりないですから、仕事も見つからない。探しきれないというのが本当のところなのだと思います。地元の新聞チラシの求人広告も有効活用できると思います。しかしいろんな言い訳をして面接にも行かない。これも薬物の影響なのか？それが今の悩みの種です。



左が尾田事務局長、
右が蜂谷氏

NO DRUGS事業とは…アパリは平成19年度・20年度に警察庁の薬物再乱用防止モデル事業を実施しました。即決裁判で執行猶予判決の男性を対象として、週に一度ダルクに通い、薬物検査とグループ・ミーティング、講義への参加を1年間続けるという内容でした。その事業が終わってからは、警視庁の警察官有志で、元薬物事犯者やその家族たちを集めてミーティングを開いています。

7月よりNO DRUGSに名称を変更しました。6月24日の池袋での交通事故を受けて3日後に、違法・合法の両方を支援することを明らかにするために複数形にしました。

アウェイクニングハウス 入寮者からのメッセージ

「危険ドラッグはやめましょう！」

ヒサ

こんにちは。自分は薬物依存症のヒサです。45歳になります。自分と薬物との出会いは25歳ころでした。当時は合法であった「ラッシュ」という鼻から吸引する薬物をセックスドラッグとして使い始めました。そのうち「ゴメオ（フォクシー）」とよばれる薬物が流行し、二つを併用するようになりました。この時の感覚が以後、自分の中での薬物の効果の基準になったような気がします。ラッシュとゴメオが違法薬物に指定された後、今から10年前くらいになりますが、今巷を賑わしている「危険ドラッグ」を使用するようになります。自分は危険ドラッグでも主に「リキッド」と呼ばれる液体の薬物を使用していました。効果は覚醒剤とだいたい同じだと思えます。当時は、週末だけの使用だったので、まさか薬物依存症になってしまうとは全く考えていませんでした。

5年位前から、不眠、抑うつ気分や異常発汗を自覚するようになり精神的に自分でも少しおかしいと感じるようになりました。仕事もきつい時期だったので、仕事の原因だろうと考えつつも薬物の影響ではないかと疑うようになりました。精神科を受診し「適応障害」の診断で睡眠導入薬を内服するようになります。職場の環境も自分に負担のないように上司が考えてくれました。しかし薬物使用は止まらず私生活は乱れる一方でした。職場では毎日イライラして同僚とのトラブルが絶えず、同僚の失敗を責めるなど人間関係で衝突することが多くなりました。薬物による性格変化だろうと思えます。自分の担当部署で重大な事故がなく本当にラッキーでした。また自分を本当に心配してくれた上司や同僚を欺いていた訳ですから申し訳ない気持ちで一杯です。

その後、転勤があり新しい環境で心機一転となるはずが更に精神状態は悪化していきます。対人関係や自分の周囲の出来事に対して猜疑心の塊のような思考になり、仕事から帰ってもゴミ屋敷と成り果てた自宅では薬物を使用する気にもなれず、ビジネスホテルを泊まり歩くようになりました。最終的に薬物使用はほぼ毎日となり、幻覚、幻聴、妄想に悩まされるようになります。

退職し実家で過ごすようになり薬物使用の回数は減りましたが、不眠や妄想は治まりませんでした。妄想が高じて警察に出頭したり、手首を切り自室に火を放つなど自分でどうにもならなくなりました。精神病院への入院も考えましたが、結局施設に入寮することに決めました。施設を選んだ理由は今でもよくわかりません。

現在、施設で集団生活をしながらプログラムに取り組んでいます。薬物依存だけでなく様々な依存症や精神疾患の治療をしている仲間達と生活して感じるのは、危険ドラッグは身体や精神が「壊れる」のが早くて、「壊れ方」が尋常でないという事です。自分が施設に入寮したばかりの頃、仲間から「覚醒剤の方が体にいい」「覚醒剤の方が安全」といったことを冗談でよく言われました。このニュースを読まれている方にすれば不謹慎な内容だと思われるでしょう。自分でも「???'」でしたが、最近これは案外正しいのではないかと思うようになりました。危険ドラッグは何がどれくらい入っているのかわからないし、どのように効くかもわかっていません。殺虫剤の成分が入っていたという事も耳にします。こうなると薬物ではなくて「毒物」です。他の薬物には検査薬があり成分特定が簡単に行えます。しかも治療実績の蓄積があり医師や施設のスタッフも対応がしやすいようです。危険ドラッグは4月から「違法」となったのでその使用、所持で逮捕されるようになりました。4月までは交通違反など他の犯罪を犯したり、身体症状、精神症状が深刻な状態にならなければ、警察、病院や施設にたどり着くことはなかったでしょう。反対に違法薬物は身体、精神症状の有無や程度に関わらず司法の介入により断薬そのものが可能です。逮捕や矯正施設へ行くことは非常に辛い経験でしょうが、薬物による身体や精神へのダメージだけを考えれば危険ドラッグよりはるかに安全と考えることもできるのではないのでしょうか。



お待たせしました！
「拘置所のタンポポ」
が増刷されました！

拘置所のタンポポ

日本ダルク代表
近藤恒夫 著

- 目次
- プロローグ のりピー、ダルクへおいでよ
- 第1章 絶頂からの転落～そして再起 わが波乱の半生
- 第2章 誰が、なぜ、ヤク中になるのか
- 第3章 あまりに知られていない覚せい剤の世界
- 第4章 なぜ薬物依存者は立ち直りにくいのか
- 第5章 立ち直るためにはどうすればよいのか
- 第6章 新生した仲間たち

■発行：双葉社
価格：1,400円（税別）

※お買い求めの方は下記へ
FAXでお申込みください。
FAX：03-5312-7588
日本ダルク インテグレーションセンター・杉本まで

※住所、氏名、電話番号、ご希望数をご記入ください。

恐らく、近い将来、法の規制をかくぐって新たな危険ドラッグが流通すると思います。安易な気持ちで手を出すと人生台無しになります。本当に身体も精神も壊れます。危険ドラッグには決して近づかないで欲しいと思います。なぜなら危険ドラッグは薬物ではなく「毒物」なのですから。

入寮して約半年が経ちます。自分は薬物を20年間体に入れ続けてきたことになりました。最初は薬物を身体から抜くことが肝心と考え、役割、プログラムなどを通じて体を動かして汗をかくようにしました。身体そのものはエイサーの練習を通じて本当に健康というか頑丈になったと思います。しかし不眠や感情の起伏の大きさ、物忘れ、落ち着きがないなど薬物の後遺症もかなりあり精神科に通院しています。「薬物をやりたい」という欲求は時々入りますが、それほど気になりません。むしろミーティング、施設での対人関係や仲間との会話を通して気づかされる自分の「性格上の欠点」や「生きづらさ」が原因と思われる事がたくさん出て来て、思考停止してしまうというか処理する手段が思いつかなくて精神的に非常にキツイです。涙を流すこともたびたびです。でも施設のいいところはやっぱり仲間の存在です。衝突するのも仲間だけれど解決の糸口をくれるのも仲間です。自分は仲間に話を聞いてもらう事でなんとかしのいでいます。自分は感情の乱れが、表情や態度に出やすく周囲を巻き込んでしまうので、爆発する前に何とかガス抜きができればかなり生きやすくなると思うのですが、難しいですね。こんな自分を受け入れてくれている（と勝手に思っていますが）仲間には本当に感謝しています。新しい仲間も増えてきたのでこれからは自分のケアをするのは勿論ですが、仲間の回復の手助けをしながら自分も回復していきたいと考えています。



アパリからのお知らせ

講座:危険ドラッグ依存の世界的な取り組み(傾向と対策)ー 予防医学の観点から(仮) 10/7(火)開催!!

ダルク女性ハウス代表の上岡陽江さんをはじめ、ダルクのスタッフ、医師、法律の専門家、保健師等から構成される“ダルク薬物政策研究会”が、海外からのゲスト講師を迎え、危険ドラッグ依存の取り組みについて学び、考える市民講座を開催いたします。詳細は次のとおりです。なお、タイトルは今後変更の可能性がございますのでご了承ください。

【日時：2014年10月7日（火）19:00～21:00（18:30開場）】

【場所：筑波大学 東京キャンパス134号室（東京都文京区大塚3-29-1）】

【入場無料：先着200名まで】

【申し込み：不要】

【問い合わせ先：東京ダルク セカンドチャンス 秋元 TEL 03-3875-8808】

【コーディネーター/司会：上岡陽江（ダルク女性ハウス代表）】

【講師：Alex Wodak氏】プロフィール：医師。シドニーの聖ヴィンセント病院アルコール・薬物サービス局長を2012年に退任し、現在は同病院の名誉顧問。オーストラリア国内の薬物使用者の人権及び公衆衛生向上のための政策策定にも長年関わり、オーストラリア薬物政策改革財団の代表等を務める。上岡さんによると、これまで2回シドニーでWodak氏を訪ね、毎回、わかりやすい内容で熱意と優しさに溢れたレクチャーを受けてきたとのこと。今回の日本滞在中に、同氏は国際学会でのシンポジウムの参加に加えて、関東以外の都市でも講座を開催予定。

主催：ダルク薬物政策研究会

共催：NPO法人アパリ他

認定NPO法人化にご協力
ありがとうございました！！

前号で認定NPO法人化のための寄付を募ったところ、58名から1,536,000円のご寄付をいただきました。（8/31現在）

皆様のご協力に感謝いたします。この寄付金の使い道として、今後、国際協力活動にも力を入れ、再度フィリピンの貧困層への支援にチャレンジしたいと考えております。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

DARS IN 仙台

第14回薬物依存症 回復支援セミナー 開催！

日時：10月11日（土）、
12日（日）

場所：仙台弁護士会館
（仙台市青葉区一番町2-
9-18）

アパリのホームページにて詳細をお知らせします。ご関心のある皆様のご参加をお待ちしております！



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部
〒162-0055
東京都新宿区余丁町14-4
AICビル1階
電話：03-5925-8848
FAX：03-5925-8984
Email：info@apari.jp

○アパリ藤岡研究センター
(運営：日本ダルク アウェイク
ニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

○入寮費：月額¥160,000
(初月のみ¥175,000)

*生活保護の方も可能

○入寮条件：薬物依存症から回復
及び自立をしようとしている本
人。男性のみ。年齢制限はありま
せん。

○入寮期間：個人により差があ
るので、話し合いながら決めてい
きます。



ホームページをぜひご覧ください。
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
平成26年9月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。

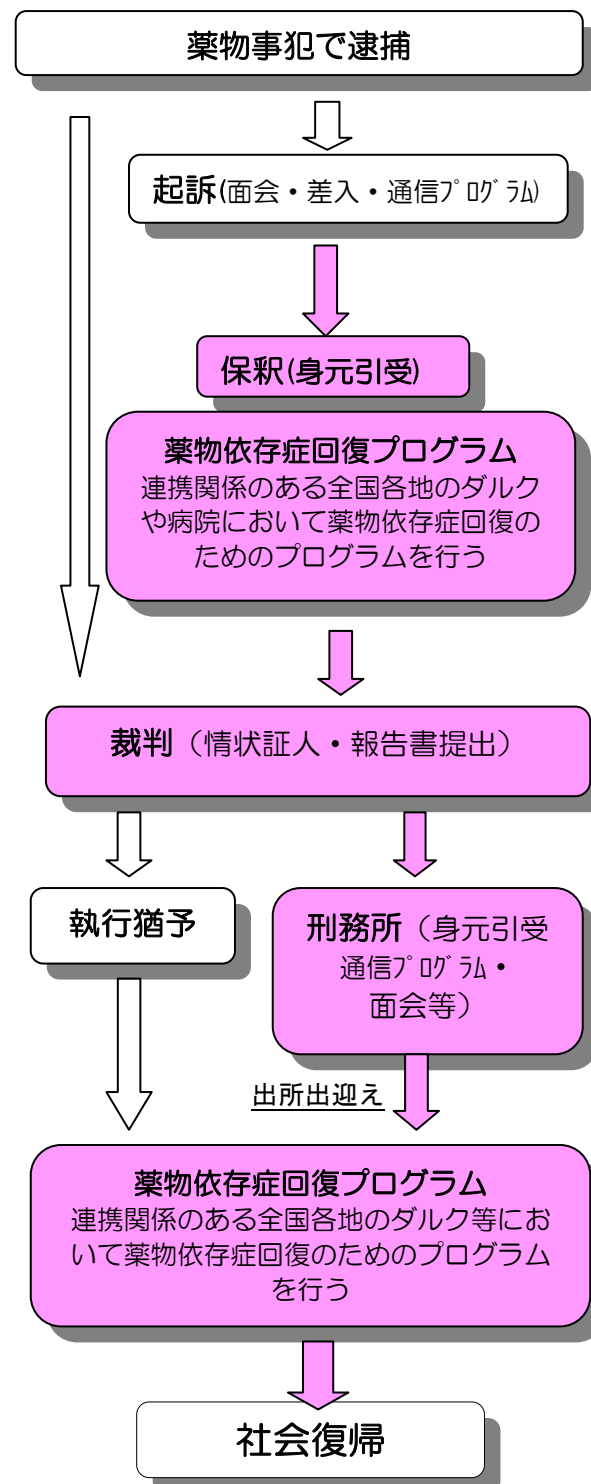
保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本の覚醒剤事犯の再犯率は約60%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。最近では特に、受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

ギャンブルの問題が原因で逮捕された方の司法サポートも行っています。(窃盗、横領、詐欺等)ご相談ください。

[費用：コーディネート契約料として一律20万円(税別)。交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



<アパリ・家族教室>

第1月曜	連続講座・テーマ	第3月曜	アディクション関連講座・テーマ・講師
9/1(月)	第3回 薬物依存症者の心にある2つの考え	9/15(月)	祝日のため休み
10/6(月)	第4回 本人・家族の心の成長—自律心・自尊心を伸ばす関わり	10/20(月)	No.26 「検察官の仕事」 市川 寛弁護士(アパリ法律事務所)
11/10(月)	第5回 気持ちの回復：家族自身の気持ちと本人の気持ちと両方を大事にする	11/17(月)	No.27 「若者の自立を促す 3つの支援」 中村 努(ワンダーポート)
12/1(月)	第6回 子どもの成長を助ける関わりについて	12/15(月)	No.28 「ヨーロッパの薬物犯罪対策」 石塚 伸一(アパリ副理事長・ 龍谷大学法科大学院教授)
1/5(月)	第7回 薬物問題を持つ人の家族の回復プログラム	1/19(月)	No.29 未定

【対象】

○連続講座(全8回)は家族のみが参加可能で、どの回からも参加できます。
○アディクション関連講座はどなたでも参加できます。

【時間】18:30~20:30 【場所】アパリ・インテグレーション・センター 1階会議室
【参加費】3,000円(2名以上の場合は4,000円) 【申し込み】不要